

(仮称) 丸森風力発電事業 環境影響評価準備書に対する意見書

令和 4年 7月 15日 提出

項目	記入欄
氏名	①日本野鳥の会宮城県支部 支部長 竹丸 勝朗 ②公益財団法人日本野鳥の会 理事長 遠藤 孝一 (公印省略)
住所	①〒982-0811 宮城県仙台市太白区ひより台 20-7 ②〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
環境影響評価準備書についての環境の保全の見地からの意見	<p>この度、貴社が作成された(仮称)丸森風力発電事業 環境影響評価準備書について、下記のとおり意見を提出します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none">1. 今回の環境影響評価に係る現地鳥類調査の結果から、多様な希少猛禽類が対象事業実施区域(以下、計画地という)およびその周辺に生息していることが明らかであり、特にクマタカの観察数が多い。国内ではクマタカが過去に風力発電施設(以下、風車と言う)によるバードストライクに遭った事例(武田 2013)があることから、バードストライクなどの影響を考慮して、風車の設置基数を減らすとともに設置位置についてもさらなる配慮が必要である。準備書では、クマタカへの影響予測結果として、年間予測衝突数の記述があるが、この数字が計画地における平均値なのか不明であり、計画地周辺に生息するクマタカの個体や個体群に対する影響も評価できず、適切な影響評価ができていないものと考ええる。風車への衝突確率に関する評価なので、風車の設置間隔(約250m)を1メッシュとし、メッシュごとに年間予測衝突数を解析するなどの評価をすべきである。この予測衝突数が高い区域で風車の設置を予定しているのであれば、風車の設置により、バードストライクが起こるだけでなく、クマタカの活動空域の障壁にもなるので、全体的に風車の設置位置を見直すべきである。2. クマタカやハチクマなどの希少猛禽類の年間予測衝突数について、貴社は、風力発電機付近には迂回可能な空間が確保されており、ブレードへの接触の可能性は低減されていると予測している。年間予測衝突数の数値が高いのは、この場所がクマタカにとって好適な生息環境であるためと考えられる。クマタカやハチクマが回避可能な空間があれば風車を迂回して飛行するかどうかについて科学的な証拠がある訳ではなく、貴社の「迂回可能な空間が確保されており、ブレードへの接触の可能性は低減されている」という評価は根拠が無く不適切であると言わざるを得ない。クマタカやハチクマのバードストライクを回避するためには、詳細な解析と評価を行い、風車の設置位置の変更を検討すべきである。3. 貴社は、クマタカやハチクマの年間衝突確率に関する予測には不確実性が伴うとしており、事後調査を行い、状況に応じた環境保全処置を講じるとしている。そこで、事後調査は死骸調査に加え、クマタカに限らず事前の影響評価と同様に鳥類相や空間飛翔調査を計画地とその周辺で行うなど、前後比較調査を実施してい

ただきたい。

なお、この現地鳥類調査の結果を一般にも公表、縦覧していただきたい。

また、事後調査実施において、雨天や強風時にはクマタカはあまり飛翔しないか、しても樹林内での飛翔が多いことから野外観察は困難なため、このような気象時のデータを除き、正味3日間の調査データを用い、影響評価をしていただきたい。

4. 事後調査における死骸探索調査において、死骸はそれを持ち去る動物がいること、調査地が樹林地となった場合、死骸探索調査には困難が伴うことなどから、バードストライクの発生の有無や確率等の評価が過少となりやすい。(公財)日本野鳥の会が発行する事後調査のマニュアルである野鳥保護資料集第25集などを参考にして、動物による死骸の持去り率や調査員による見落とし率または発見率等を用いた適切な死骸調査方法を実施していただきたい。

また、計画地は宮城県東南部の尾根筋にあり、降雪があっても雪が融けるのは早く、積雪量は多くない。そこで、事後調査は積雪期を除くことはせず、年間を通した事後調査を実施していただきたい。

以上